

【ご紹介】2018年度日本建築学会大会（東北）学術講演会 研究発表参加

2018年9月4日（火）～9月6日（木）の3日間 東北大学で開催されました。
防耐火関連では耐火防火試験室の職員が下表に示す5題を報告しました。

講演番号	題名	発表者	概要
3106	火災を受けたコンクリートの劣化深さの推定に関する基礎的研究 その1 実験概要,コアの圧縮強度,静弾性係数および縦ひずみ分布	新井真 (耐火防火試験室)	コンクリート試験体を耐火炉用いて加熱し、採取されたコアに対して圧縮強度試験を行った。 コア長手方向のひずみ分布から劣化深さを推定する方法を検討した。
3145	直交梁とピン接合された合成梁の火災時温度予測 その1 等厚RCスラブを用いた無耐火被覆完全合成梁の場合	四元順也 (耐火防火試験室)	RCスラブを用いた無耐火被覆合成梁の実大載荷加熱実験について、差分法による3次元伝熱解析を実施し、計算値と実験値の比較検討結果を報告した。
3169	縮小LIFT試験装置による内装材料の燃え広がり測定 その1 実験概要およびコーンカロリメーター試験結果	土橋常登 (耐火防火試験室)	内装材料の燃焼時の発熱性および火災時伝播性を把握することを目的に、縮小LIFT試験装置による内装材料の燃え広がりに関する実験を行なった。
3171	縮小LIFT試験装置による内装材料の燃え広がり測定 その3 縮小LIFT試験の結果	小宮祐人 (耐火防火試験室)	塩ビ壁紙を貼り付けた石膏ボードについて、その1ではコーンカロリメーター試験により着火限界熱流束(着火温度)、熱慣性及び発熱速度を測定した結果を報告した。その3では縮小LIFT試験で火災伝播速度と発熱速度を測定し、それらの結果を報告した。
3173	壁装材料の防火性能に関する検討 その6 模型箱試験の追加試験結果	高山真吾 (耐火防火試験室)	既往研究で報告した塩化ビニル系壁紙と繊維系織物壁紙を模型箱試験の結果報告の続きであり、新たに紙壁紙を対象として有機質量や難燃剤の有無などが発熱性状に及ぼす影響を確認した。

次年度の日本建築学会大会は金沢工業大学扇が丘キャンパス（2019年9月3日（火）～9月6日（金））で開催されます。
防耐火関連の自主研究ならびに性能協研究活動等の報告を行う予定です。

【お知らせ】告示改正について

建築基準法の一部を改正する法律（平成30年法律第67号）の概要が示されました（平成30年6月27日公布）。その中から、防耐火に関する事項を二つご紹介します。

参考URL(国土交通省HP)

http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_tk_000097.html

■ 防火・準防火地域における延焼防止性能の高い建築物の技術的基準を新たに整備

防火・準防火地域における「延焼防止性能の高い建築物の性能を総合的に評価する」という改正も行われます。

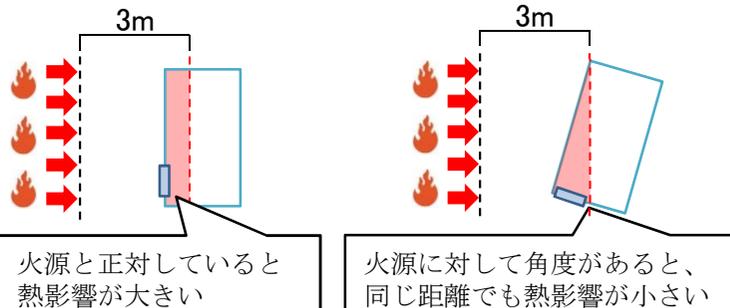
防火・準防火地域に立地する建築物について、外殻(外壁や開口部)の防火性能を高めるなど、重点的な措置を行う設計を可能とすることで、建築物内部で木材の利用が可能となります。

■ 「延焼のおそれのある部分」の定義の見直し

現行の延焼のおそれのある部分の考え方から、「建築物の外壁面と隣地境界線等の角度に応じて、当該建築物の周囲において発生する通常の火災時における火熱により燃焼するおそれのないものとして国土交通大臣が定める部分については、「延焼のおそれのある部分」には該当しないものとする。」といったように建築物が火源に対して角度がある場合、その角度に応じて延焼のおそれのある部分が決定されることとなります。

基本的な考え方

火源と正対している場合に比べ、火源に対して角度があると、同じ距離でも熱影響が小さいことを踏まえ、「延焼の恐れのある部分」を定めることとする。



【ご紹介】試験体選定・新評価方法

■ 吹付硬質ウレタンフォームの包含範囲拡大

Vol.7でご紹介した、吹付硬質ウレタンフォームの包含範囲が拡大されました。

吹付硬質ウレタンフォーム包含範囲

変更前	変更後
吹付け硬質ウレタンフォーム ・密度 Y~25 kg/m ³ 注) 7 ≤ Y ≤ 25	吹付け硬質ウレタンフォーム ・密度 ①Y~25 kg/m ³ 注) 7 ≤ Y ≤ 25 ②Z~50 kg/m ³ 注) 25 ≤ Z ≤ 50

注1): その他項目、適用範囲及び試験体選定基準は変更なし

注2): ウレタンフォームの仕様により①、②を選択

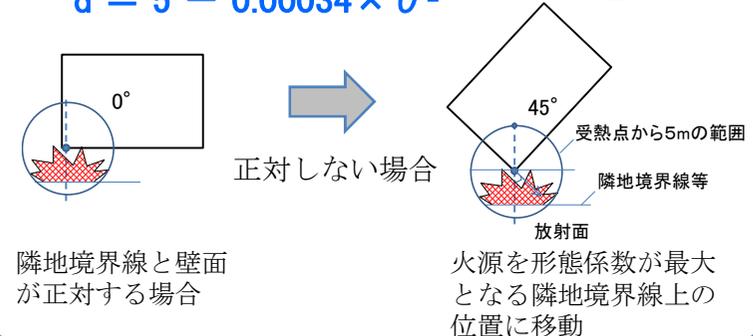
密度に新しい包含範囲が加わった

具体的な延焼のおそれのある部分(イメージ)

角度に応じた延焼のおそれのある部分の範囲

$$d = 5 - 0.00034 \times \theta^2$$

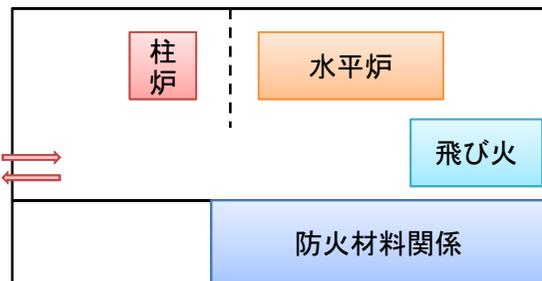
d: 離隔距離
θ: 受害側壁面角度



【お知らせ】耐火防火試験室(池田) 第3期棟建設工事の進捗

■耐火防火試験室(池田) 水平炉・柱炉建設工事着工

9月30日から水平炉・柱炉の建設工事が始まりました。柱炉は三方の炉壁が組みあがりしました。現在は水平炉の炉壁を組み始めたところです。今年中には水平炉・柱炉が完成し、来年から試験業務を開始する予定です。
屋根飛び火試験は水平炉・柱炉が完成後に装置を設置するため、2019年2月頃から試験業務を開始する予定です。



【編集後記】

数年ぶりの台風が大阪に直撃し、多大な影響がみられましたが、皆さまはご無事でしたでしょうか。池田事業所では直接的な台風被害はありませんでしたが、当日の夜から翌々日まで停電となりました。電話も不通となり、ご迷惑をおかけいたしました。
今回の災害から日頃からの備えが重要であり、対策・対応を見直す良いきっかけとなりました。

【スケジュール】性能評価委員会

2018年11月から2019年3月の防耐火関係の委員会開催日程(予定)は下表のとおりです。GBRCのホームページでもご確認いただけます。

	11月	12月	1月	2月	3月
防耐火構造部材 性能評価委員会	12日 26日	10日 26日	16日 30日	13日 27日	13日 27日
防火材料 性能評価委員会	28日	21日	30日	未定	27日

【認定情報】大臣認定期間

2018年10月現在、大臣申請から約1.0ヶ月後に認定書が交付されています。

大臣申請については『GBRCによる代理申請』又は『自社申請』が選択できます。



- 代理申請:
お客様に代わって、大臣認定の申請に精通したGBRC職員が、申請時の説明や申請後の国交省からの問合せ等に対応いたします。
交通費等負担金として、1件あたり、1万5千円を頂戴します。
- 自社申請:
お客様が自ら申請を行います。
申請後、認定書が交付されましたら下記担当者までご一報ください。

発行者: 一般財団法人 日本建築総合試験所
建築確認評定センター 性能評定課(池田事業所)
担当: 豊田、門岡、松田(防耐火構造、防火設備)
高山、正木(防火材料、飛び火)
TEL: 072(768)8201 FAX: 072(768)8215
E-mail: seinou2@gbrc.or.jp